

1 ニワトリが先か、たまごが先か？ 統計では・・・

統計は利用から？ 総務省監修・(財)全国統計協会連合会発行「統計実務基礎知識(H18年度版)」7 ページには「統計は利用から始まる」と書かれています。その意味をナビ編集局では、国や県・市町村などが作成する公的統計は“私たちの生活に役立ってなんぼ”“利用されてなんぼ”、だから必要とされる統計が統計調査により作成されたり、調査統計を使った加工統計が作成されたりする、こう理解しました。

統計は統計作成から？ 「ちょっと待った！」もう一つの考え方があるようです。利用とか活用とか言っても統計自体がなければ始まらない、すなわち統計の存在を既定の事実とは考えずに、調査現場で調査対象である個人のお宅や事業所の担当さんに断られても何度も何度も足を運び、たった1枚の調査票を回収する調査員さん、そして商売や仕事が忙しい中で「書いておいたよ」と笑顔で調査票を渡してくれる事業主の方、統計はこうした皆さんの協働があって初めて誕生すると考えます。さて、あなたは統計ではニワトリ（利用）が先か、たまご（統計作成）が先か？どちらだと考えますか。



静岡県中小家畜試験場HP「駿河若シャモ」

2 最近の話題から

縄文時代は2万人！ (財)日本統計協会「第46回統計セミナー(H19.3.6)」で鬼頭宏・上智大学教授は、様々な研究者によるわが国の人口推計結果を紹介しています。たとえば、縄文時代早期(8千年前)推計人口は2.0万人、弥生時代(1.8千年前)は59.5万人、奈良時代(725年)は451万人、平安前期(900年)は644万人、鎌倉時代(1280年)は595万人、室町時代(1450年)は960万人、江戸時代(1721-1846年)は3,128万~3,230万人、明治時代(1873-1900年)は3,330万~4,654万人などです。ちなみに最新の総人口データでは、全国(H19.2.1)は1億2,774万人、静岡県(H19.3.1)は約3,795千人です。奈良時代以前は、この日本列島に今の静岡県民程度の人数しか住んでいなかったと考えると不思議な気がしませんか(このように社会の変化を客観的に見れるのも統計があればこそです)。

第4回全庁統計連絡会議 県庁各部局の統計実務者が、統計業務の情報を共有化し“意見交換する場”として発足した「統計実務者の意見交換会(全庁統計連絡会議)」が平成19年3月16日、県庁で開催されました。会議では庁内統計情報一元化の実践や「しずおか統計戦略プラン(案)・未定稿」などの報告があった後、平成19年度以降に向けた提案があり、引き続きの活動を再確認し会議は閉会となりました(右下写真)。

平成19年度は“企画部”統計3室です！ 静岡県が、豊かな県民生活の実現を目指し県組織を見直したため、平成19年度より統計3室は生活・文化部から企画部に移ります。既に、新年度執務場所(県庁東館6階)への引越しも完了し新年度の体制づくりは整いました(電話番号・Fax番号は同じ)。

